

# 森茂起教授 略歴

氏名 森 茂起（もり しげゆき）  
 生年月日 1955年2月19日  
 出生地 兵庫県神戸市

## 学歴・職歴等

### 学 歴

1973年4月 京都大学理学部入学  
 1977年3月 同上卒業  
 1977年4月 京都大学教育学部編入学  
 1979年3月 同上卒業  
 1979年4月 京都大学大学院教育学研究科博士前期課程入学  
 1981年3月 同上修了（教育学修士・教育方法学）  
 1981年4月 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程入学  
 1984年3月 博士後期課程単位取得退学  
 1998年3月 博士（教育学）：京都大学論教博第75号

## 職歴

1984年4月1日 甲南大学文学部講師  
 1991年4月1日 甲南大学文学部助教授  
 1997年4月1日 甲南大学文学部教授

### 在 外 研 究

1989年9月-1990年3月 甲南大学在外研究 スイス，チューリヒ，ユング研究所  
 1995年11月-1996年9月 甲南大学在外研究 イギリス，ロンドン，タヴィストック・センター  
 2013年4月-2014年3月 甲南大学在外研究 ドイツ，フランクフルト，ジークムント・フロイト研究所

### 資 格

1991年3月 臨床心理士（登録番号第2878号）  
 2009年4月 Independent Member of International Federation of Psychoanalytic Societies.

### 所 属 学 会

日本心理学会，日本心理臨床学会，日本子ども虐待防止学会，日本トラウマティック・ストレス学会 日本精神分析学会 日本精神分析的な心理療法学会，日本ソーシャルペダゴジー学会，日本箱庭療法学会，International Federation of Psychoanalytic Societies.

### 学 会 等 役 職

2008年4月- 日本子どもの虐待防止学会編集委員会委員（現在に至る）  
 2008年4月- 日本トラウマティック・ストレス学会監事（現在に至る）  
 2011年6月-2012年5月 日本精神分析的な心理療法フォーラム会長（～現在，理事）  
 2018年2月- 日本ソーシャルペダゴジー学会会長（現在に至る）

## 社会的貢献

- 1988年4月- 社会福祉法人博愛社 非常勤セラピスト (現在に至る).  
2001年11月- 兵庫県虐待専門総合アドバイザー (現在に至る).  
2001-2002年 兵庫県児童虐待防止委員会議長 (~現在, 委員)  
2004年4月-2010年3月 兵庫県こころのケアセンター こころのケア研究推進協議会委員  
2007年1月-2007年3月 阪神こどもの館 (仮称) 整備検討委員会委員長  
2009年8月-2010年3月 新ひょうご子ども未来プラン策定協議会会長  
2010年4月-2013年9月 新ひょうご子ども未来プラン推進協議会会長  
2011年6月- 兵庫県社会福祉審議会児童福祉専門分科会里親部会長 (現在に至る)  
2013年9月- 兵庫県子ども・子育て会議会長 (現在に至る)  
2015年5月-2021年3月 兵庫県地域創生戦略会議委員

## 甲南大学における主な役職等

- 1997年4月~1998年3月 甲南大学文学部人間科学科主任  
2002年11月~2010年3月 甲南大学人間科学研究所長  
2005年4月~2006年3月 甲南大学心理臨床カウンセリングルーム長  
2006年4月~2007年3月 甲南大学文学部人間科学科主任  
2010年4月~2012年3月 甲南大学文学部長  
2010年4月~2012年3月 甲南学園理事 (2号)・評議員 (5号)  
2012年4月~2014年3月 甲南大学心理臨床カウンセリングルーム長  
2017年4月~2010年3月 甲南大学大学院人文科学研究科長  
2019年4月~2023年3月 甲南大学人間科学研究所長

## 森茂起教授 業績一覧

### 1. 著書

- 森茂起・森年恵 (2002). ト라우マ映画の心理学—映画にみる心の傷』新水社.
- 森茂起編 (2003). ト라우マの表象と主体. 新曜社.
- 森茂起 (2005). ト라우マの発見. 講談社.
- 森茂起編 (2005). 埋葬と亡霊—トラウマ概念の再吟味. 人文書院.
- 森茂起・港道隆編 (2012). <戦争の子ども>を考える—体験の記録と検証の試み. 平凡社.
- 森茂起編 (2013). 自伝的記憶と心理療法. 平凡社.
- 森茂起編 (2016). 「社会による子育て」実践ハンドブック. 岩崎学術出版社.
- 森茂起 (2018). フェレンツィの時代—精神分析を駆け抜けた生涯. 人文書院.

### 2. 学術論文

- 森茂起 (1981). ある登校拒否児の両親面接. 京都大学教育学部心理教育相談室紀要, 臨床心理事例研究 第8号 171-177.
- 森茂起 (1982). 登校拒否からアパシー状態に陥った男子の事例. 京都大学教育学部心理教育相談室紀要, 臨床心理事例研究, 9, 146~153
- 森茂起 (1983). 治療者における分裂病向性と神経症向性—ABタイプ仮説の検証の試み. 心理学研究, 54, 3, 167-173.
- 森茂起 (1983). ある青年の夢分析の過程. 京都大学教育学部心理教育相談室紀要, 臨床心理事例研究, 10, 77-84.
- 森茂起 (1984). 心理療法における「賭け」について—Philobatism との比較による分析. 京都大学教育学部紀要, 30, 322-332.
- 森茂起 (1984). ピーターパン物語の分析心理学的分析. 甲南大学紀要文学編, 55, 128-143.
- 森茂起 (1986). 「賭け」研究の文献的展望 (1) —「賭け」の心理学へ向けて. 甲南大学紀要文学編, 59, 60-75.
- 田口友康・藤原儀直・太田雅久・森茂起 (1987). 音楽テンポに関する心理学的一研究. 甲南大学紀要 文学編, 63, 23-38.
- 森茂起 (1988). オーストラリアにおける箱庭表現に関する研究. 箱庭療法学研究, 1, 1, 17-26.
- 森茂起 (1988). 初回夢における子供像の意味について. 甲南大学紀要 文学編, 67, 29-43.
- 森茂起 (1989). ある情緒障害児の母親面接と家族の変容について. 心理臨床学研究, 7, 1, 69-80.
- 森茂起 (1991). オーストラリアの分析心理学的考察. 国立民族学博物館研究報告別冊, 15, 323-333.
- 森茂起 (1991). 夢の心理学からみた『白い恐怖』—ヒッチコック・フロイト・ダリとの出会い. 甲南大学総合研究所叢書, 14, 9-30.
- 窪田幸子・森茂起 (1992). 描かれた心—アポリジニ神話の深層. 季刊民族学, 62, 68-75.
- 森茂起 (1992). 心理療法の終結に関するユング心理学的一考察. 季刊精神療法, 18, 5, 435-441.
- 森茂起 (1993). 精神分析のフロンティアを歩んだ生涯—こころの科学を創った人々 (10) バリント. こころの科学, 日本評論社, 49, 12-18.
- 森茂起 (1994). フロイトのドストエフスキー論と嗜癖問題. 甲南大学総合研究所叢書, 35, 19-34.
- 森茂起 (1995). 震災体験と子供たちの絵画表現. 河合隼雄編, 心を蘇らせる, 講談社, 198-206.
- 森茂起 (1995). 文献にみる日本のユング心理学受容史. 季刊AZ, 34, 154-167.
- 森茂起 (1995). 宮沢賢治の心理学. 甲南大学紀要 文学編, 94, 48-65.
- 森茂起 (1996). 子供たちへのグループ・ワークの効果. 岡堂哲雄編, 現代のエスプリ別冊 被災者の心のケア, 至文堂, 129-137.

- 森茂起 (1996). 宮沢賢治と精神分析学. 甲南大学紀要 文学編, 98, 50-66.
- 森茂起 (1996). 「甘え」と一次愛—土居と Balint による心の原初領域の把握. 心理臨床学研究, 14, 3, 257-268.
- 森茂起 (1996). 描画グループ・ワークによる子供への援助災害と心の癒し. 兵庫県臨床心理士たちの大震災, ナカニシヤ出版, 76-88.
- 森茂起 (1997). 分析心理学的家族面接のための試論. 甲南大学臨床心理研究, 5, 1-10.
- 森茂起 (1997). 震災と子供の心. 斧谷彌守一編, 阪神大震災・心の風景. 甲南大学阪神大震災調査委員会, 76-88.
- 森茂起 (1998). 心象スケッチへの道 (1) —初期短歌作品にみる宮沢賢治の心象観. 甲南大学紀要 文学編, 106, 30-48.
- 森茂起 (1999). 心象スケッチへの道 (2) —〈わたくし〉という舞台の成立. 甲南大学紀要 文学編, 110, 1-20.
- 森茂起 (2000). 心理療法の終結に関するユング心理学的一考察. 河合隼雄編, ユング派の臨床, 金剛出版, 128-145.
- 森茂起 (2000). 心象スケッチへの道 (3) —宮沢賢治の心象理論の成立. 甲南大学紀要 文学編, 114, 1-20.
- 森茂起 (2000). 震災による心的外傷. 臨床心理学大系, 17, 心的外傷の臨床, 金子書房, 157-175.
- 塩山晃彦, 植本雅治, 新福尚隆, 井出浩, 関渉, 森茂起, 井上幸子, 夏野良司, 浅川潔司, 箴部博 (2000). 阪神淡路大震災が小中学生に及ぼした心理的影響 (第二報: 震災後2年目までの推移). 精神神経学雑誌, 102, 5, 481-497.
- 森茂起・白川敬子・鈴木暁子 (2000). 描画グループワークによる心的外傷への治療的関わり—阪神・淡路大震災後の小学校における実践から. 心理臨床学研究, 18, 5, 511-522.
- 森茂起 (2001). 生徒指導. 木村忠雄編, 教育心理学のエッセンス, 八千代出版, 163-193.
- 森茂起 (2001). 「甘え」と創造性. 甲南大学紀要 文学編, 118, 59-75.
- 森茂起 (2001). 機能不全の家族をどう考え, 立て直すか. 学校臨床における家族への支援, 家族心理学年報, 19, 日本家族心理学会, 132-142.
- 森茂起 (2001). 外傷後ストレス障害の原因と心理的症状. 小児看護, 24, 7, 804-810.
- 森茂起 (2001). 治療者の献身について. 山中康裕監修, 魂と心の知の探求, 創元社, 187-192.
- 森茂起 (2002). 「トラウマと主体」への覚書. 甲南大学紀要 文学編, 122, 99-112.
- 森茂起 (2003). S・フェレンツィ『臨床日記』. 福本修・斎藤環編, 精神医学の名著50, 平凡社, 354-363.
- 森茂起 (2003). M・バリント『一次愛と精神分析技法』. 福本修・斎藤環編, 精神医学の名著50, 平凡社, 407-416.
- 森茂起 (2003). 「甘え」と「しつけ」の再生—児童虐待防止の視点. 松尾恒子編, 母と子の心理療法, 創元社, 42-67.
- 森茂起 (2003). トラウマによる主体の生成と損傷. 森茂起編, トラウマの表象と主体, 新曜社, 197-219.
- 森茂起 (2005). 攻撃者への同一化とトラウマの連鎖. 森茂起編, 埋葬と亡霊—トラウマ概念の再吟味, 人文書院, 216-238.
- 森茂起 (2005). 児童養護施設におけるプレイセラピーと「包容」. 東山紘久・伊藤良子編, 遊戯療法と子どもの今, 創元社, 166-178.
- 森茂起 (2006). 『事件』における被害の構造. 甲南大学紀要 文学編, 142 1-26.
- 森茂起 (2007). トラウマと「いま」—賠償と秘密の行方. 川田都樹子編, 「いま」を読む—消費至上主義の帰趨, 人文書院, 272-296.
- 森茂起 (2007). グループワークとしての事例懇談会—児童養護施設における養護職員支援. 岡田康伸, 河合俊雄, 桑原知子編, 心理臨床における個と集団, 創元社, 212-225.
- 森茂起 (2007). いじめの解決—心の傷のケアについて. 臨床心理学, 7, 4, 478-482.
- 森茂起 (2007). 精神分析は解離とどうつきあってきたか. こころの科学, 日本評論社, 136, 29-34.
- 森茂起 (2008). ナイルの水源地の再発見—外傷臨床に精神分析的視点を生かす. 甲南大学文学部紀要 文学編, 1-15.

- 森茂起 (2008). 虐待を受けた子どもの心理的回復. 遊戯療法学研究, 7, 1, 68-82.
- 森茂起 (2009). 心的外傷と身体に関する一考察—フェレンツィの外傷理論から. 伊藤良子・大山泰宏・角野善宏編, 身体 の病と心理臨床—遺伝子の次元から考える, 創元社, 236-250.
- 森茂起 (2009). D S M-Ⅲまでのトラウマ概念—「神経症」の時代. トラウマティック・ストレス, 7, 2, 13-23.
- 森茂起 (2011). 「折れない心」はどのようにして育つのか. 児童心理, 金子書房, 925, 10-17.
- Maha El-Helbawey・野々山久也・森茂起 (2011). The image of the family regarding traumatic stresses and child abuse; A case study of Japanese elementary school students. 甲南大学紀要 文学編, 160, 237-248.
- 森茂起 (2011). 児童養護施設における子どもたちの自伝的記憶—トラウマと愛着の観点から. トラウマティック・ストレス, 9, 1, 13-22.
- 港道隆・森茂起 (2011). 「トラウマ」の引用符 (上). 思想, 1049, 79-114.
- 港道隆・森茂起 (2011). 「トラウマ」の引用符 (下). 思想, 1050, 91-126.
- 森茂起 (2011). 悲しみを乗り越えられないときに起きる問題—子どもに残るトラウマ症状について. 児童心理, 941, 30-36.
- Shigeyuki Mori (2011). Globalization and the importation of psychoanalysis into Japan. Loewenberg, P. & Thompson, N. L. (eds.). *100 Years of the IPA: The Centenary History of the International Psychoanalytical Association 1910-2010 Evolution and Change*. The International Psychoanalytical Association, 390-401.
- Shigeyuki Mori (2012). Der Weg der Psychanalyse nach Japan. *Forum der Psychoanalyse*, 28, 2, 109-116.
- 森茂起 (2012). 大学院で精神分析の心理療法を学ぶことはなぜ難しいか. 甲南大学心理臨床カウンセリングルーム紀要, 21, 1-5.
- 江尻真樹・道免逸子・森茂起 (2012). Narrative Exposure Therapy による複雑性 PTSD の治療 (1) —医療現場への導入例. 日本サイコセラピー学会雑誌, 13, 1, 59-65.
- 道免逸子・江尻真樹・森茂起 (2012). Narrative Exposure Therapy による複雑性 PTSD の治療 (2) —効果と適応の検討. 日本サイコセラピー学会雑誌, 13, 1, 67-74.
- 森茂起 (2013). 自伝的記憶の整理としての心理療法—トラウマ性記憶の扱いをめぐる. 森茂起編, 自伝的記憶と心理療法, 平凡社, 12-41.
- Shigeyuki Mori (2013). The complications of the perpetrator-victim relationship for Japanese children during World War Two: what can psychoanalysis contribute toward conciliation between China and Japan?. Gerlach, A., Teresa, M., Hooke, S., & Varvin, S. (eds.). *Psychoanalysis in Asia*, Karnac, 181-193.
- Shigeyuki Mori, Yumi Yoshikawa, Haruhiro Ishitani, (2013). Schweigen oder Vergessen?: Reaktion auf den Tsunami und die Bewältigungsarbeit einer Gemeinde in Japan. *Freie Assoziation*, 16, 3+4, 29-47.
- 森茂起 (2014). トラウマ治療の現在. 精神科治療学, 29, 5, 647-653.
- 森茂起・大森淳郎・小林茂・北村毅 (2016). 戦争体験と子ども虐待—トラウマの世代間連鎖から考える. 子どもの虐待とネグレクト, 18, 2, 189-213. (担当部分, 戦争が子育てに与える傷: 問題領域の概観. 189-196.)
- Yuning Zhang, Yoshikazu Fukui, & Shigeyuki Mori (2016). Japanese residential care in transformation: Implications and future directions. Tuhinul Islam & Leon Fulcher (eds.). *Residential Child and Youth Care in a Developing World*, The CYC-Net Press.
- 森茂起 (2016). 死者の声はどう届くのか—『埋葬と亡霊』その後 (上). 心の危機と臨床の知, 甲南大学人間科学研究所, 17, 31-40.
- Shigeyuki Mori (2017). The Japanese contribution to violence in the world: The kamikaze attacks in World War II. *International Forum of Psychoanalysis*, DOI: 10.1080/0803706X.2017.1367841.
- 森茂起 (2017). 特集にあたって. 子どもの虐待とネグレクト, 17, 3, 326-328. (特集「レジリエンス再考」企画趣旨)
- 森茂起 (2017). ナラティブ・エクスポージャー・セラピー (NET). 野呂浩史編, トラウマセラピー・ケースブック—症例にまなぶトラウマケア技法, 星和書店, 175-193.
- 森茂起 (2017). 人生史の共有を目指して—自伝的記憶に焦点を当てた虐待臨床. 子どもの虐待とネグレクト, 18,

3, 318-326.

- 森茂起 (2017). 心の基盤に困難を抱える子どもへの心理的援助を考える—人生史への関わりから見た施設養護臨床. *精神分析的な心理療法フォーラム*, 4, 58-63.
- 道免逸子・森茂起 (2017). ナラティブ・エクスポージャー・セラピーの効果に関する文献展望. *トラウマティック・ストレス*, 14, 2, 55-66.
- 木下雅博・大西彩子・森茂起 (2017). 遊びが子どもの社会的行動に与える影響—プレイフルネスと衝動制御に着目して. *応用心理学研究*, 42, 3, 209-219.
- 木下雅博・森茂起・大西彩子 (2017). 遊び体験尺度の開発. *応用心理学研究*, 43, 1, 1-10.
- Shigeyuki Mori, Satoru Nishizawa, & Arimi Kimura (2018). Reconsidering recent developments in Japanese residential care and the road to FICE Japan. Shigeyuki Mori, Satoru Nishizawa, & Arimi Kimura, *International Journal of Child, Youth & Family Studies*, 9, 1, 121-131.
- Yuning Zhang, Charlotte C. A. M. Cecil, Edward D. Barker, Shigeyuki Mori, & Jennifer Y. F. Lau (2018). Dimensionality of Early Adversity and Associated Behavioral and Emotional Symptoms: Data from a Sample of Japanese Institutionalized Children and Adolescents. *Child Psychiatry & Human Development*, 50, 3, 425-438.
- Yuning Zhang, Emiko Tanaka, Tokie Anme, Shigeyuki Mori, Robert Bradley, & Jennifer YF Lau (2018). Japanese residential care quality and perceived competency in institutionalized adolescents: A preliminary assessment of the dimensionality of care provision. *Children and Youth Services Review*, 91, 204-212.
- 森茂起 (2019). 児童養護施設における子どもたちの自伝的記憶—トラウマと愛着の観点から. 笠原麻里編, 子どものトラウマ—アセスメント・診断・治療, 日本トラウマティック・ストレス学会編集委員会, 金剛出版, 159-173.
- Shigeyuki Mori (2018). A World Without Return: The Kamikaze Attacks and Shōhei Ōoka. *The Journal of Literature and Trauma Studies*, Issue 6: 1/2 Literature and Trauma after Hiroshima: A Japanese-English Bilingual Issue, 113-138. (唯一人帰る者のない世界—神風特攻と大岡昇平. 同誌, 139-158)
- 森茂起 (2019). 生を支える意志について—フェレンツィとドルトを参照して. 心の危機と臨床の知, 甲南大学人間科学研究所, 20, 43-58.
- 森茂起 (2020). 死者の声はどう届くのか—『埋葬と亡霊』その後 (中). 心の危機と臨床の知, 甲南大学人間科学研究所, 21, 29-48.
- 森年恵・森茂起・木下雅博 (2020). 深夜アニメのトラウマ構造—最終戦争の破局は回避されるのか. 心の危機と臨床の知, 甲南大学人間科学研究所, 21, 19-29.
- 森茂起 (2020). パリ—一九三三年—トラウマ治療の挑戦. 甲南大学紀要 文学編, 170, 七-二五.
- 森茂起 (2020). ナラティブ・エクスポージャー・セラピー (NET) における認知再構成について. *精神科治療学*, 35, 6, 629-634.
- 森茂起 (2020). ナラティブ・エクスポージャー・セラピー—傷を語る. *臨床心理学*, 20, 1, 48-52.
- 森茂起 (2020). 戦争における「踏み越え」について. *トラウマティック・ストレス*, 18, 1, 1-9.
- 森茂起 (2020). 「社会的養育」のための人材育成—ソーシャルペダゴジーを参照して. 子どもの虐待とネグレクト, 22, 3, 48-55.
- 森茂起 (2021). 戦争体験の聞き取りにおけるトラウマ記憶の扱い. 蘭信三・小倉康嗣・今野日出晴編, なぜ戦争体験を継承するのか—ポスト体験時代の歴史実践, みずき書林, 195-226.
- 森茂起 (2021). フロイトは統合失調症をどう捉えたか. *育ちの科学*, 36, 81-84.
- 荒川和歌子・森茂起 (2021). ナラティブ・エクスポージャー・セラピー施行におけるアセスメント. 野呂浩史編, *トラウマセラピーのためのアセスメントハンドブック*, 星和書店, 217-232.
- 和田晃尚・森茂起 (2021). 児童福祉領域におけるアセスメント. 野呂浩史編, *トラウマセラピーのためのアセスメントハンドブック*, 星和書店, 23-38.
- 森茂起 (2021). 記憶の物語化—宮澤賢治を考えながら. *臨床心理学*, 21, 4, 422-427.
- 森茂起 (2021). どちらが狂っているのか—フェレンツィの排除と (再) 取り入れ. *思想*, 1168, 78-94.

- 森茂起 (2021). ナラティブ・エクスポージャー・セラピーの活用と工夫. 飛鳥井望編, 複雑性 PTSD の臨床実践ガイド—トラウマ焦点化治療の活用と工夫, 日本評論社, 129-148.
- 森茂起・荒川和歌子 (2021). ナラティブ・エクスポージャー・セラピーと複雑性 PTSD. 精神療法, 47, 5, 563-568.
- 宮地尚子・森茂起 (2021). 傷と回復の時—トラウマの時間論. 臨床心理学, 増刊第13号, 106-121.
- 森茂起 (2021). 心理療法で語られるトラウマの物語. 精神分析的な心理療法フォーラム, 9, 83-90.
- 森茂起 (2021). 戦争体験者と解離. こころの科学, 221, 53-58.
- 三島利江子・森茂起・天野玉記・市井雅哉・前田多章 (2022). 両側性タッピングの速度が自律神経系に与える影響. EMDR 研究, 14, 1, 47-55.
- 森茂起 (2022). トラウマに追いつく. 臨床心理学, 増刊第14号, 174-179.
- 森茂起 (2022). ユング派精神療法の現在への雑観. 精神療法, 48, 3, 218-219.

### 3. 翻訳

- マイケル・バリント著, 中井久夫・滝野功・森茂起訳, スリルと退行. 岩崎学術出版社, 1991. (Michael Balint: *Trills and Regressions*.)
- マイケル・バリント著, 中井久夫・森茂起・柘矢和子訳, 一次愛と精神分析技法. みすず書房, 1999. (Michael Balint: *Primary Love and Psychoanalytic Technique*.)
- ロバート・エイヴンス著, 森茂起訳, 想像力の深淵へ—西欧思想におけるニルヴァーナ. 新曜社, 2000. (Robert Avens: *Imagination is Reality*.)
- シャンドル・フェレンツィ著, 森茂起訳, 臨床日記. みすず書房, 2000. (Sándor Ferenczi: *Ohne Sympathie keine Heilung: Das klinische Tagebuch von 1932*.)  
by Autor)
- ネヴィル・シミントン, ジョアン・シミントン著, 森茂起訳, ビオン臨床入門. 金剛出版, 2003. (Neville Symington & Joan Symington: *The Clinical Thinking of Wilfred Bion*.)
- ニコラ・アブラハム, マリア・トローク著, 港道隆・森茂起・前田悠希・宮川貴美子訳, 狼男の言語標本—埋葬語法の精神分析/付・デリダ序文“Fors”. 法政大学出版局, 2006. (Nicolas Abraham et Maria Torok: *Le Verbier de l'homme aux loups, précédé de "fors."*)
- シャンドル・フェレンツィ著, 森茂起・大塚紳一郎・長野真奈編訳. 精神分析への最後の貢献—フェレンツィ後期著作集, 岩崎学術出版社, 2007. (Sándor Ferenczi の著作から編集)
- マギー・シャウアー, トマス・エルバート, フランク・ノイナー著, 森茂起・明石加代, 牧田潔, 森年恵訳, ナラティブ・エクスポージャー・セラピー—人生史を語るトラウマ治療. 金剛出版, 2010. (Maggie Schauer, Frank Neuner, & Thomas Elbert: *Narrative Exposure Therapy: A Short-Term Intervention For Traumatic Stress Disorders after War, Terror, or Torture*.)
- マーガレット・S・シュトレーベ, ロバート・O・ハンソン, ヘンク・シュト, ヴォルフガング・シュトレーベ著, 森茂起・森年恵 (抄訳), 死別体験—研修と介入の最前線. 2014, 誠信書房. (Margaret S. Stroebe, Robert O. Hansson, Henk Schut, & Wolfgang Stroebe: *Handbook of Bereavement Research and Practice: Advances in Theory and Intervention*.)
- ブレット・カー著, 森茂起訳, フロイトとの対話. 2022, 人文書院. (Brett Kahr: *Coffee with Freud*)
- ジャン・ストロー著, 森茂起・榎原真也・益田啓裕訳, 実践家のためのソーシャルペダゴジー—子ども・若者と関わる理論・価値観・ツール. 誠信書房, 2022. (Jan Storø: *Practical Social Pedagogy: Theories, Values and Tools for Working with Children and Young People*.)

### 4. 学会発表 (主なもの)

- 治療者と患者の適正関係の研究—分裂病向性と神経症向性. 日本心理学会第45回大会 1981.
- オーストラリアにおける箱庭表現に関する研究. (共著) 日本心理学会第51回大会, 1987.

- The Development of Australian Children's Images Shown by the Sand Play Technique. (共著) The Australian Psychological Society, 28th Annual Conference, Brisbane, Australia, 1993.
- 災害後の「心のケア」における援助の諸次元. シンポジウム 震災と心理学, 日本心理学会 第59回大会, 1995.
- An Art Group Work Technique for helping children suffering from traumatic stress. 27<sup>th</sup> International Congress of Psychology, Stockholm, Sweden, 2000.
- 児童養護施設における被虐待児のプレイセラピー—治療目標とテーマの推移をめぐって, 日本心理臨床学会第21回大会, 2002.
- Trauma as a Psycho-somatic Entity in Ferenczi's Theory. Clinical Sándor Ferenczi Conference, Baden-Baden, Germany, 2006.
- Import der Psychoanalyse nach Japan. Jahrestagung der DPG (Deutsche Psychoanalytische Gesellschaft), München, Germany, 2009.
- Ferenczi's call for preventing children's suffering. Sándor Ferenczi Returns Home ; International Conference, Miskolc, Hungary, 2009.
- 児童養護施設幼児ホームにおける愛着の扱い. 日本トラウマティック・ストレス学会, 2010.
- Application of NET for children under child welfare service. International Federation for Psychotherapy. Luzern, Switzerland, 2010.
- The complications of the perpetrator-victim relationship for Japanese children during World War Two: What can psychoanalysis contribute toward conciliation between China and Japan? The 1st Asian Conference of International Psychoanalytic Association, Beijing, China, 2010.
- Qualitative Analysis on War Childhood in Japan: Based on Interview Cases. (共著) European Society for Traumatic Stress Studies, Vienna, Austria, 2011.
- Rearing Environment and Children's Social Emotional Development in Japanese Children's Homes. (共著) World Association for Infant Mental Health, Cape Town, South Africa, 2013.
- Integrated Testimony Therapy 導入の試み—戦争体験による PTSD の治療. (共著) 日本トラウマティック・ストレス学会, 2013
- Narrative Exposure Therapy for the Treatment of Complex PTSD: An Examination of its Effect and Adaptation in a Japanese Clinical Setting. (共著) European Society for Traumatic Stress Studies, Bologna, Italy, 2013.
- Rearing Environment in Japanese Children's Institutions. (共著) FICE-International, Bern, Swiss, 2013.
- Deconstructing the notion of "Asian Oedipus": Focusing on an unwanted child. International Psychoanalytical Association, Asia-Pacific Conference of Psychoanalysis, Taipei, China, 2017.
- The Japanese contribution to violence in the world: The *kamikaze* attack in WWII. International Federation of Psychoanalytic Societies, New York, USA, 2017.
- Becoming a perpetrator in an analytic session: a way out from a traumatic complication. International Society for Traumatic Stress Studies, The Second Washington Conference, 2018.
- A trial to grasp the present caregiving environment and problems of Japanese residential care homes: For promoting better social pedagogic practice. (共著) FICE International, 34th World Congress, Tel Aviv, Israel, 2019.
- ソーシャルペダゴジーとは何か—今後の社会的養育を考えるために. 日本子ども虐待防止学会第25回学術集会, Basic Lecture 6, 2019.
- 戦争における「踏み越え」について. 日本トラウマティック・ストレス学会, ランチタイムセミナー, 2019.